

「晩秋の上高地紀行(9)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

子どもたちが好きな歌に「アルプス一万尺」という曲がある。尺は「山の標高」を意味し、1尺=約0.3mなので、「一万尺」というのは「約3000m」という意味だ。北アルプスの高峰は標高3000mクラスなので、「アルプス一万尺」というわけだ。その後続く歌詞の「こやりの上で」というのは、ほとんどの子どもは「子ヤギの上で」だと思っている。私も子どもの時そうだった。実は「小槍(こやり)」という意味で、槍ヶ岳の前衛の小さな山頂の名である。「子ヤギの上」はもちろん「小槍」も非常に急峻なので山頂で「アルペン踊り」は不可能である。



「五千尺ホテル」というのは、「標高1500m」という意味で、まさしく上高地の標高を意味している。客室からは、河童橋や穂高連峰・焼岳も見渡せる。



私はホテルを出て、両親と上高地を歩くことにした。ホテルのすぐ上手は「小梨平(こなしだいら)」とい

って、キャンプ場になっている。前夜は霜がおりるほど寒かったが、かなりたくさんのテントが張られていた。中には小さな子ども連れの家族も見られた。私も山岳部時代に、このキャンプ場でテントを張ったことがあり、とてもなつかしかった。当時、五千尺ホテルの姉妹施設の「五千尺ロッジ」というところに泊ったこともある。こちらは二等寝台車のようなベッドが並び、まさに山小屋風の施設だった記憶がある。



上高地は、梓川がゆるやかに流れる、非常に平坦な地形だ。遊歩道もまったくと言って良いほど高低差がなく、年配の方でも安心して散策できる。しかも、山小屋や郵便局の車以外は、まったく自動車が走っていないのも良い。



父は昭和8年、母は昭和15年生まれで、共に80歳を超えているが、非常に元気だ。毎年のように海外旅行に出かけている。今年もオランダ運河の旅を申し込んでいたのだが、コロナで中止。上高地を楽しみにしていたのだ。

この日は非常に天気に恵まれ、素晴らしいハイキングになった。最後に歩数計を見たら合計15,000歩(約10km)も歩いていたが、さほど疲れを見せていなかった。病気もせず、まったく有難いことだと思った。